

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・第21回理事会議事録

- 日時：平成29年5月22日（月）13:30～16:30
- 場所：沖縄県庁 14階会議室
- 出席（役員）：中野義勝、八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）、沖縄リーフチェック研究会（安部真理子）、沖縄県衛生環境研究所（金城孝一）、後藤亜樹、宮古島マリンリゾート協同組合（新村一広）、西平守孝、沖縄エコツーリズム推進協議会（花井正光）、有限会社コーラルクエスト（岡地賢）、那覇自然環境事務所（速水香奈）、安納昭則
- 委任状：佐藤崇範、木村匡、藤田喜久、沖縄県立博物館・美術館（山崎仁也）、梶原健次、沖縄県自然保護課（金城賢）
- 事務局長：沖縄県環境部自然保護課（津波昭史）
- 運営委員：沖縄県環境科学センター（山川英治）キュリオス沖縄（仲栄真礁）
- 議事録署名人：有限会社コーラルクエスト（岡地賢）、沖縄県衛生環境研究所（金城孝一）

役員23名中、上記12名の出席者（会長、副会長、理事9名、事務局長）および6名の委任状により、成立要件である理事の過半数を満たしたので成立、内容を協議し決定した。

議事録署名人として有限会社コーラルクエスト（岡地賢）、沖縄県衛生環境研究所（金城孝一）が選出された。

【アンダーライン部分が理事会での決定事項】

【「・」は説明事項および提言事項】

【「→」は説明事項や提言事項に対する意見】

（1）事務局および各委員会からの報告（資料1）

（ア）事務局からの報告

① サンゴ礁ウィークについて

- ・事務局よりサンゴ礁ウィーク2017の実施概要と今後の展望が報告された。
→各イベント報告に開催場所を追記するとよい。
- ・わたしのサンゴ礁イメージ展の審査の際には、公平な審査となるように氏名を明記せずに写真のみの評価を行う。
- ・次回の実行委員については、今回の参加団体からも募集してはどうか。
→次回実行委員会設立時に検討する。
- ・次回のスケジュールは6月中旬に実行委員会を立ち上げ、イメージ展等の準備にとりかかる。

② 平成29年度事務委託について

- ・事務局より平成29年度事務委託について説明を行った。
→キュリオス沖縄への委託費が15万円増額した理由は何か。
→サンゴ礁ウィークがイベントとして拡大傾向にあり、今回は国際サンゴ礁2018との連携も想定される。併せて、前回の業務内容を見直してサンゴ礁ウィーク庶務にかかる人件費を上乗せしている。

- ・法人化作業やジュニアサンゴレンジャー事業の事務委託について、委託先は決まっていない。
- ・事務委託費の増額についてはサウジアラムコ基金からの積み増しで対応する。
→事務委託について事務局案が承認された。ただし、委託先が決まっていない委託については予算全体の割合を考慮して決定とする。

③ 寄付対応について（アラムコからの寄付について）

- ・事務局より、アラムコ・アジア・ジャパン株式会社からの新規の寄付について説明がなされた。今回、新たにアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援基金を設立し、2017年7月1日から2020年6月30日までを期限として50,000米ドルの寄付の提案がなされている。
- ・既存の基金をなるべくはやく使い切りたいとのこと。毎年400万円を助成事業として計上しており、これまで通りだと3年以上かかってしまう。
→書籍を出版するなど、新たな事業も検討してはどうか。形に見えるものを製作できると良いのではないかと。協議会の今までの活動やサンゴ礁ウィークのイベント成果を書籍化して出版できると成果としても残ってわかりやすくて良い。委託事業とすれば、理事や事務局の負担を減らせる。
- ・会員の参加がより活発になるように使用するべきと考える。
→助成事業の上限金額を60万円から100万円に上げてはどうか。利用者から現在の上限額だと利用しにくいという意見も聞いている。
- ・新たな基金について受け入れが承認された。既存の基金については新たな用途を検討していく。

④ 那覇空港写真展について

- ・8月1日から9月2日まで那覇空港で展示予定。
- ・5月27日、28日のダイビングフェスタ大阪2017にも受賞作品を展示予定。過去の受賞作を活用する。
- ・上記の展示の実施について承認された。

（イ）将来委員会からの報告＜法人化（NPO法人）について＞（資料2）

- ・将来委員会では、認定NPO法人を目指して、NPO法人格の取得を進めるという結論に至った。
- ・行政からの助成をどう受けるか。
→支援している団体との競合を避ける必要がある。助成団体としての発展を目指す。
- ・法人化した上で自然保護課が事務局につくのは違和感がある。
→猟友会（一般社団法人）など、前例がある。公益的で、自然保護課の役割に資するものがあれば対応可能である。
→他団体から追求があった場合、説明責任は県側にある。現時点で了承するものではないが、制度的には可能であることは確かである。
- ・自然保護課の助成を受けることは出来るのか？
→業務委託という形になる。
- ・法人化に係る法律と運営体制についても考慮して、どの法人にするのかの方針を決めたほうが良いのではないかと。

→どの法人にするのかについては将来委員会で議論してきた。将来委員会は総会でどのような経緯でNPO法人が選ばれたのかを説明する責任がある。理事会はその説明を受けた上で、議論が足りていない部分について具体的に要求する形がよい。

- ・法人化によって制限される部分もあるので、総会参加者が法人化の方針を検討・理解できるようにメリット・デメリットを明確に示しておく必要がある。
- ・アラムコからは法人化について何か意見はなかったのか。
→現状が任意団体であることから法人化については理解してもらっている。
- ・法人化に伴い、組織運営の制度が変わってくるだろう。法人化後に支障を来さないように事前検討が必要であろう。
→理事に環境省や行政が入れるのか、会費を取るのかなど、具体的な内容についてはまだ議論が必要ではないか。
- ・将来委員会で決定されたNPO法人化の方針を承認する。その一方で、法人としての組織運営体制については引き続き理事会で議論を行っていく。

(2) サウジアラムコ助成事業について (資料3)

(ア) 平成29年度サウジアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援助成事業に係る各種要領と要綱、スケジュール、審査会構成員

- ・平成29年度の助成事業について事務局より説明がなされた。
- ・先程意見がでていたが、上限を100万円にしてはどうか。
→助成額が100万円になった際に税制上問題はないのか？
→完全に個人が受けているとなると、税金が掛かる可能性がある。
- ・金額の下限を設ける必要があるか。
→加減を設けず、少額での申請があった場合も等しく内容を審査し、適切であれば助成を行う。
- ・現在は助成対象を会員の活動に限っているが、非会員向けに助成した場合のメリットはどのようなものがあるか。
→非会員も助成対象に含めると、これまでより広く応募者を募ることができる。
- ・助成事業の各種要領と要綱、スケジュール、審査会構成員案について承認された。審査会構成員については、個別に確認を取る。
- ・また、助成の上限を100万円とし、下限を設けない形で実施することが承認された。

(イ) サウジアラムコを活用した新たな支援事業

- ・事務局より、ジュニアサンゴレンジャー支援プロジェクト(サンゴ礁保全啓発活動 少額支援制度)について説明がなされた。
- ・送金まで時間がありすぎるのではないか。
→実施しながら利用者の意見を聞いて改善をしていく。
- ・サンゴ礁ウィークでの発表を条件にすると、サンゴ礁ウィークでの利用が難しくなるのではないか。
→その場合は交流会での報告を行ってもらおう。

- ・審査は誰が行うのか。
→新たに審査会の設立が必要となる。場合によってはサウジアラムコ助成事業の審査会と人選が重なるかもしれない。
- ・将来的には自然保護課や那覇自然環境事務所との協働事業として実施できると良い。
- ・上限 5 万円の助成を 10 団体に行う内容で承認された。募集期間については、年 2 回の募集で検討する。
- ・毎日メディアカフェの取り組み（初回は実施済み残り 3 回の講演を予定）を助成事業の予算で実施することが承認された。

(3) 第 10 回総会について（資料 4）

- ・第 10 回総会について事務局から説明がなされた。
- ・会場が未定。豊見城の沖縄空手開館の研修室（約 100 名）を仮押さえしている。
→駐車場は十分にあり、使用料金についても問題はない。
- ・日程は 6 月 17 日を予定しており、時間は 10 時から 12 時までを理事会、13 時 30 分から 15 時までを総会、15 時から 16 時 30 分で交流会の実施を予定している。
- ・総会の日程と会場について承認された。

第 1 号議案について（平成 28 年度活動報告）

- ・平成 28 年度活動報告の後援、共催、協賛一覧に足りない後援がある。
→確認して修正する。

第 2 号議案について（平成 28 年度決算報告）

- ・決算報告の収支決算額が合っていない。再度監査の確認が必要である。
→確認して修正する。

第 3 号議案について（平成 29 年度活動計画）

- ・活動内容について、出版事業を提案する。サンゴ礁ウィークをはじめ、助成事業など協議会の活動をまとめて毎年出版してはどうか。
→事業自体はどこかの団体に委託してはどうか。
→広報委員会に担当してもらい、活動内容に新たに出版事業を追加することが承認された。
- ・県内で情報発信できる場の活用を提案してはどうか。例えば県立博物館の自然史分野の展示スペースにサンゴ礁研究のポスターが掲示されている。
→広報委員会で山崎理事と相談して実施について検討する。

第 4 号議案について（平成 29 年度予算案）

- ・ジュニアサンゴレンジャー支援事業の旅費については、1 団体複数名の旅費を支援すると 30 万円で足りるのか。
→沖縄島内は航空運賃等がかからないことや全ての団体が口頭発表する条件となっていないことから、この金額とした。
→旅費とその内容については理事会 ML で引き続き議論を行う。

- 交流会を会員が来たいと思えるイベントにしたい。理事からも積極的に活性化のアイデアを出して欲しい。
- 総会資料の内容について承認された。ただし、修正が必要な資料は修正後理事会 ML 上で承認することとする。

以上